

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒207-0005
東京都東大和市高木3-315-1-2-2
http://www.yumuyu.com/
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up, TOHOKU!

2016年(平成28年)8月16日 火曜日

無料

第51号

毎月発行

創刊2016年(平成28年)8月16日 火曜日

三陸沿岸部観光復興遅れ 支援したい側とされる側との 微妙なすれ違いをはつきり 認識すべきではないか？

今も観光客が戻らない 三陸沿岸部

日本経済新聞の八月八日の記事に寄れば、大震災被災地の三陸沿岸には、五年経った今でも観光客が戻っていないという。

宮城県の二〇一五年の入り込み観光客数は六〇七万人で、震災前の二〇一〇年が六千二百二十八万人なのでほぼ同水準に回復しているように見えるが、仙台市を中心とした地域が5.7%増加したことが主要因であり、津波被害が大きかった地域の落ち込みは依然として大きいままである。

その証拠として、石巻地域は28.4%も落ち込んだまま、気仙沼地域は40.6%と大きく減少したままである。(表参照)

大震災から5年以上経過しているのに、こうした状

況であることには言葉を失うばかりである。なぜこうなってしまったのだろうか。この五年間の間に、有効な復興策が検討され、実行に移されなかったからだろうか。あるいは、こうした状況がある程度予測されていたにもかかわらず、柔軟性を欠き、硬化化した復興対応に流された結果なのだろうか。

支援する側の心変わりなのか？

この五年間で、支援したい側が急激に変化したせいだろうか。そんなことはないと思いたい。

現に、筆者が主催している「三陸酒海鮮会」という東北地酒を飲み、三陸の海鮮を食べ、東京に居ながらにして、間接的に被災地を支援しようという会も、あしかけ四年継続しており、毎回の参加者の意識も高いと感ずる。

支援したい側はそんなに変化していないと思う。では、このギャップはなぜ起きているのだろうか。前述の日本経済新聞にはこの原因のひとつに、「...首都圏などでは「多くの犠牲者が出た場所へ観光に行くのは気が引ける」という声は今も根強く残っている。」としている。

他方、気仙沼市長のコメントとして、「遠慮せずに来て復興に向けて進む市民と言葉を交わし、その力強

さを感じてほしい。我々も都会の人々の考えを知りたい」と。このコメントを比較し、深読みしてみると、被災地と首都圏の観光予備軍との間に微妙なギャップがあるのを感じざるをえない。

支援したい側と支援される側とのすれ違い

わずかな、微妙なすれ違いが大きな結果を呼び込むことはよくある。

この五年間で、支援する側は、他の地域の大災害もあり、三陸被災地にだけ関心を向ける傾向が薄れたこととは当然である。当事者でもない限り、五年間も、震災直後の緊迫した心情を要望するのには無理がある。

それに、ここまでずいぶん支援してきたという思いもあるだろう。そうした支援でそれなりの復興も実現したであろうとの思いもある。他方、支援される側は、さまざま事情により、いまだ復興らしき復興も実現しておらず、まだ支援の手が欲しい。

だから、復興の現場も見てくれば、支援の手を緩めるべきはないことも分かってくれるはずであるとの思いがある。こうしたところに、微妙な心のすれ違いがあると思

うのである。そして、誰かが、はつきりとそのことを伝えなければ、永遠に溝は埋まらないままであり、この先はむし

ろ、どんどん溝が大きくなる可能性もあると感じる。交通インフラ復興遅れと宿泊施設不足

こうした状況下に加えて、交通インフラ復旧遅れがあるが、全線開通したのは昨年であり、実に震災から四年も要した。

気仙沼圏の中心の気仙沼市への移動に使う気仙沼線はさらに条件が悪く、いまだに全線開通せず、一部は代替機能としての「バス高速輸送システム(BRT)」に頼らざるを得ない状況。

さらに、悪条件を加えることに、データが示すように、被災地の宿泊施設の不足問題がある。

ここまですると、支援する側にすべての負担を強いるのは忍びない。さまざま事情があるのは察せられるが、やはり迎える側に、震災から五年後のインフラ復興を体感できるほどの土台作りが必要だったとは言えないか。

民泊・体験型宿泊

復興インフラが総合的に整備されないと観光事業を展開することはあきらめな

いといけな

るが、どうしてこれを積極的に導入しないのだろうか。「民泊」要素に加えて、漁業体験ツアーも組み込んではどうだろうか。

筆者も幼少時、朝早く起きて船に乗り、少し沖合まで出て、網上げを見に行っていた。網上げを見に行くとその勇壮な漁師の皆さんの姿がこびりついている。

網上げにはじまになるかもしれないが、その一部作業でも体験できたら、あるいは、浅瀬で網を仕掛けて、魚を採る体験をするというのはどうだろうか。

きつと充実した交流ができるとすれば、従来以上に観光客を惹きつける場所になるように官民あげて、あるいは、首都圏の事業者も参加してもらって、新たな観光企画を捻出して欲しい。

もう復興直後ではない通常の観光へ切り替え

もう震災から五年も経つたら、通常の観光事業に戻ろうとしなければならぬと思う。

全部整ってからのというのではなく、少しずつそうした体制に移行しなければならぬと思う。

いつまでも、被災地であったことを全面に押し出すというのではなく、文字通り、復興を遂げた場所にならなければならない。

震災直後に、被災者の心

でもそれだけでも不足である。前記の体験型漁業を加えるのもそのひとつである。

郷土芸能を開放する

観光客を惹きつける場所になるように官民あげて、あるいは、首都圏の事業者も参加してもらって、新たな観光企画を捻出して欲しい。

三陸はもとと海産物の美味いところであるが、それだけでは物足りないの

である。それだけで首都圏からわざわざ被災地に出かけては行かない。もっと工夫が必要である。

前記の体験型漁業を加えるのもそのひとつである。でもそれだけでも不足である。

きつと初めて見る観光客は、ほんとは来て良かったと感激し、一生の思い出となるにちがいない。

地元の人からすれば、これは見せ物ではなく、神事だということかもしれない。

しかし、神事として開催しつつ、観光客にも見せることは可能ではないか。

東北の祭りは七夕とねぶた祭り、竿燈だけではない。三陸は想像以上に郷土芸能の宝庫であり、季節ごとにたくさんの祭りがある。これを見せるのである。

宮城県観光課 観光企画班 発表データ

1. 観光客入り込み数 (平成27年1月~12月)

観光客入込数は、6,077万人。平成26年比335万人増加(+5.8%)。

(単位：千人)

	H22	H26	H27	H22年比	H26年比
仙南圏域	5,672	6,361	6,012	106.0%	94.5%
仙台圏域	33,680	32,696	35,603	105.7%	108.9%
大崎圏域	9,974	9,328	9,225	92.5%	98.9%
栗原圏域	1,132	1,543	1,892	167.1%	122.6%
登米圏域	2,772	2,666	2,710	97.7%	101.6%
石巻圏域	4,432	2,828	3,177	71.7%	112.4%
気仙沼圏域	3,624	2,003	2,154	59.4%	107.5%
合計	61,286	57,424	60,772	99.2%	105.8%

2. 宿泊観光客数 (平成27年1月~12月)

- 県内全体の宿泊観光客数は929万人で、前年と比べ67万人増加(+7.8%)しました。
- 東日本大震災前のH22年との比較では124万人(+15.5%)多くなっています。
- 圏域別にみた場合、震災で宿泊施設が甚大な被害を受けた「石巻」、「気仙沼」の各圏域については、H26年比で宿泊観光客数は増加しているものの、宿泊施設の復旧の遅れが影響し、H22年比では、それぞれ70.8%、80.8%の水準に止まっています。

(単位：千人)

	H22	H26	H27	H22年比	H26年比
仙南圏域	607	666	632	104.2%	94.9%
仙台圏域	5,649	6,383	7,048	124.8%	110.4%
大崎圏域	927	879	845	91.2%	96.1%
栗原圏域	87	111	111	127.4%	99.8%
登米圏域	26	52	78	305.9%	149.6%
石巻圏域	311	184	220	70.8%	119.4%
気仙沼圏域	441	340	356	80.8%	104.6%
合計	8,047	8,616	9,290	115.5%	107.8%

ホヤを好きになってもらう方法 なぜ嫌いな人が多いのか? 鮮度の問題だけなのか? 妙案はほんとにあるのか?



せつかく水揚げが震災前に戻ったのに・・・

シヨッキングなホヤの大量廃棄ニュース
六月のホヤの大量処分は、元に戻るまでに3・4年を要した。この間、当新聞もホヤの動向に関してはずつとフォローしてきた。復興後のホヤ市場の微妙

な状況下、余計な発言で、ホヤ販売に水を差す結果になつてはいけないと突っ込んだ記事にするのをためらっていた。しかし、このニュースに接し、行き詰った状況を打開できる方法について、忌憚なく思う所を述べることにした。

前記ニュースによれば、宮城県漁協は今夏、大量の養殖ホヤを廃棄処分にするという。東京電力福島第一原発の事故で韓国が宮城からの水産物輸入を規制したため、生産過剰が続く、廃棄量は水揚げできる量の半分以上にあたる1万トン前後とみられ、廃棄の費用などを東電に請求する方針とのこと。

り、約8割の国内シェアがあった。津波で大きな打撃を受けたが、生産能力は震災前の水準をほぼ回復している。しかし、震災前に生産量の7割を振り向けていた韓国への輸出は止まったまま。韓国が福島、宮城など8県の水産物の輸入を全面的に禁止した。現在、水揚げのほとんどは国内向けで昨年の出荷量は約4100トン。海中で、養殖用のロープにつるされたまま出荷できない大量のホヤを放置すれば台風などで落下して海を汚し、新たに種付けする場所の確保も難しくなる。このため、宮城県漁協は廃棄を決めたという。

売れないのは韓国禁輸措置だけのせいなのか?

このように、一般のホヤ大量廃棄の原因は、生産量の7割を占める韓国向けホ

ヤの禁輸措置によるものとされるが、はたしてそれだけだろうか。筆者は宮城県出身であるが、幼少時、ホヤはほぼ国内消費だったのではないかと輸出など耳にしたことはなかったように思う。韓国への輸出が急増し始めたのは、2001～03年頃。韓国で、ホヤの殻が軟化・破裂する被囊(ひのう)軟化症という病気が蔓延したため、韓国のホヤ養殖生産量が激減し、現在も回復していないことがその背景にある。したがってホヤの輸出は比較的新しいのだ。

そこで、時間軸を少し長めに採れば、一般の大量廃棄の直接的原因は韓国禁輸にあるが、それ以前に、国内消費が長期的に低落し続け、それを解消しようとして、韓国のホヤ養殖事情を利用して、輸出偏重となってきたことがベースにあると結論づけて間違いない。

ホヤを嫌いになる理由

当新聞で毎号取り上げている三陸酒海鮮会においても、ホヤを積極的にPRしてきた。

さらに、恐る恐るではあるが、主催するお店側に頼んで、何度かホヤの酢の物を会の酒肴に採用してもらったことがあった。そのたびに、参加者にホヤについてのコメントをもらうようにしてきた。なかにはホヤ好きな人も

いるが、ホヤには良い思い出がない、大嫌いだという人には何度も出会った。共通しているのは、過去に、鮮度の落ちたホヤを食べたことである。最悪なのは、鮮度の落ちたホヤでひどい腹痛に襲われたというケースである。それ以来、ホヤは見るのも聞くのもいやだという人が予想以上に多いのだ。

食べてはいけないホヤ 美味しいホヤの味

ではほんとおいしいホヤの味とはどんなものか考えてみよう。

しかし、その前に、美味しくないと、美味しさを詳しく検証してみよう。鮮度が極端に落ちて、絶対に食べてはいけないレベルのホヤはまず匂いで分かる。鉄分のきつい腐った浜の匂いがする。このレベルは論外である

が、外身には分からなくとも、中味がこれに近いものでも、もし食べようものなら腹痛覚悟である。ここまでのホヤのレベルに遭遇した人たちが、ホヤ大嫌いになっていて、見るのも聞くのもいやだということである。

ホヤの戦略を間違えていないか?

次に、前記のレベルではないが、水揚げ後、おおよそ三日か四日程度経過し、あまり新鮮とは言えないレベルのものは、食べると多少生臭く、鉄の錆びたような味がし、生臭さが増す。これが腐っているのかどうかわからない、何ともいえないが、美味しいか、美味しくないかと問われれば、美味しいはずがない。

このレベルは微妙である。では、鮮度の良い、美味しいホヤとはどんなものか。まず、水揚げ後のホヤを食べるとちよつと渋みがある。海の香りはするが、生臭さは微塵もない。身は少々固い。水揚げから1日くらい経過したものが筆者は好きである。渋みがなく、身もほどよく柔らかい。

料理人でも鮮度を理解していない

一般人ではなく、料理人ならば、ホヤの鮮度が理解できるだろうと思つたら、それは誤りであると思う。

産地の料理人や魚屋ではそんなことは起きないが、三陸に最も近い関東圏の料理人や魚屋でも、ホヤの鮮

度を自信をもって答えられる人は少ないと思う。ホヤに、薬味などを添え、酢の物にするとホヤの鮮度が薬味で誤魔化される。新鮮なものは、薬味などなくても臭みはない。

最近、都内のスーパーで生のホヤを見かけることが多くなった。しかし筆者はこれがとても心配である。何度かホヤを食し、ホヤの鮮度感覚が磨かれている人は問題ないが、初めて食べる人や、食べる回数の浅い人が、購入後、冷蔵庫に保管はするが、ある程度の日時を経過してから食べたらと考えただけで冷や汗が出る。他の水産物と同様の保管方法で問題ないと勘違いをしているのではないかと、思うと居たたまれない。

塩辛とバクライ普及!

ついでながら、先述の三陸酒海鮮会では、ホヤの塩辛やバクライ(「莫久来」とは、ホヤとキノワタ(ナマコの腸)で作る塩辛)はないかと、日本酒党から再三の質問を受けた。

ホヤの塩辛、ましてやバ



バクライ

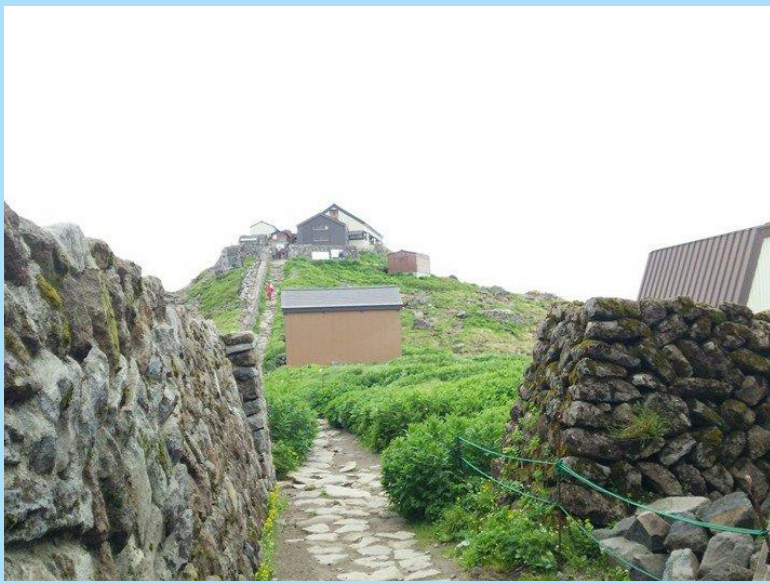
クライなどとても高価である。もつと安価であれば、開催場所のお店に頼んで提供してもらうことも可能だが、いかんせん高価すぎる。これを大量に生産することで大幅コストダウンと低価格化をはかり、全国に出荷して、生のホヤの三陸圏外出荷と大胆に入れ替えてみてはどうだろうか? 塩辛とバクライなら、微妙な鮮度問題からは解放されるし、作り置きは可能だし、何より生に比べて高付加価値化は間違いない。それに、塩辛とバクライならば、確実にファンが増えると思言できる。そして今は日本酒ブームであり、酒の肴に絶好である。これを逃してはならない。これで、これまでアンチホヤファンを増やしかねない戦略を大転換し、ファンを増やし、併せて食の観光の目玉として、生ホヤを三陸で提供するというホヤ事業に大転換するのである。

連載

出羽三山修験道について② 月山に登ってみた、スケジュールを 強行した結果、山の急激な天候変化であやうく遭難しがけてしまった

月山登山のために 山登りの練習開始

筆者は、還暦過ぎてから突然、山登りをしてみようと思いついた。
若い時分には山登りにまったく興味がなかった。
一念発起の動機は、出羽三山参拝であり、特に月山



月山神社本宮遠景

に登って見たかったからである。そして、いつかやってみたいと思っている山伏修行の足がかりにでもなればと考えたのである。
しかし、いきなり月山登山では無理であろうと、東京近郊のいくつかの低山で少しは練習したが、後になつて、この練習がまったく不十分であつたことに気づくことになる。

出羽三山参拝 強行スケジュール

何とか休暇も取れそうなることと、安い列車の切符が入手できるので、日程だけは先に決めたが、これも後になって大いなる反省材料となつた。
東京の自宅出発は、月山の山開きの翌日の七月の二日早朝の始発電車。



月山雪渓

一泊二日で、出羽三山の羽黒山、月山、湯殿山に参拝する強行スケジュール。しかし七月三日の月山の天気予報が思わしくない。何度も点検したが、最初は霧雨。日を追うごとに、霧雨から雨、強風予報であり「登山不適」のマーク。最初登ろうとしたのは、月山スキー場の方から、リフトを利用してのコース。このコースでは、雨は最悪のようだ。

何とか休暇も取れそうなることと、安い列車の切符が入手できるので、日程だけは先に決めたが、これも後になって大いなる反省材料となつた。
東京の自宅出発は、月山の山開きの翌日の七月の二日早朝の始発電車。

登りは何とか順調

登りの平均時間は三時間で、初心者コースと聞いていたし、下りは二時間半もかからないだろう。暗くなる前に八合目まで下りてきて、鶴岡駅に向かおうと甘い計画を立てていた。
登り始めてから、これが初心者コースかと後悔した。

遭難しかけた下山

下りはじめてますます風が強まり、突風となつた。そのうちに小雨が混じり、やがて激しい雨に変わる。霧も出て風と雨は台風並み。風よよけて何度も転ぶ。
霧が深まり前方に何も見えない。視界五メートル。叩きつける雨で何も見えず、メガネもはずす。雨具も持参していない。撥水ウェアで霧雨など切り抜かれると高をくくっていた。結果、全身ずぶぬれ。パートナーのカミさんと怪我だけはしないようにと励ましあつて、何と登りと同じ三時間を要して下山。これは間違いなく遭難一歩手前であつた。

月山は神の山

大変な月山登山であつた。素人登山の無謀さがもたらす恐ろしい結果をいやというほど思い知らされた。
当時に、月山は神さまの住む山だとも感じた。八合目からの登りの一歩一歩が、神さまの住む場所へ近づくのを感じた。
より一層神さまの気配を感じたのが下りであつた。風雨に晒され、気持ちも挫けそうになるなか、励まされたような気がした。
山の厳しさと包容力の双方を感じられた月山登山であつた。こうしたつたない経験では、とても修験の山伏の足元にも及ばないが、貴重な体験であつた。
一緒に登った「山ノ神」には大変なお叱りを受けたのは言うまでもない。

おまけつき

二日目の羽黒山と湯殿山参拝もトラブル続きだつた。羽黒山は何とか参拝できたが、羽黒山から湯殿山へのルートは時間がかかる。どうしてもその日は、山形市方面に移動しなければならぬ。それで急いだ。ところが、湯殿山手前で事故渋滞。一時間待っても動かず。結局引き返した。出羽の神さまに、再度出直して来いと言われているような気がした旅だつた。



羽黒山杉並木と石段



月山頂上への岩だらけの道



月山八合目

うまい東北地酒と 三陸海鮮の会 第19回 三陸酒海鮮会の日本橋開催



東北地酒ラインアップ

第十九回目の三陸酒海鮮会・日本橋開催は、七月二十八日に開催されました。七月末ということもあり、みなさんお仕事が忙しいというので、いつもより参加者は少ない状況でした。

「宮城などに仕事で行って、地元の飲み屋さんに行くけど、決まって、「ホヤは食べられませんか?」と聞かれるが、あれは良くない。むしろ「三陸の珍味である美味しいホヤをご賞味ください」となぜ言わないのかという意見をいただきました。

開会に先立ち、宮城県漁協によるホヤの大量処分のお話しをさせていただきました。一万トンの処分ということでみなさん一様に驚かれていました。その後、いろいろな方から、ホヤに関するご意見を頂戴しました。やはり、ホヤが苦手という方のお話もありました。他方、もっと自信を持つべきだという励ましもいただきました。



地酒を説明するお店のオーナー

「ホヤは食べられませんか?」と聞かれたら、何か恐ろしいものが出てくるのではないかと警戒感を抱かせます。わざわざ逆効果PRをするのはおかしいです。もっとシンプルにホヤをすすめるべきだと納得しました。



近くにある松島神社／大鳥神社

得した次第です。会場の近くに小さな神社を見つけた。何度も通った通りなのに、まったく気づきませんでした。水天宮前は興味深い街です。



鮭と焼きナスのおろしあえ・・・完成

鮭と焼きナスと大根おろしの組合せは暑い夏にぴったりですね!

第24回 水産業再興のための料理レシピ紹介

【鮭と焼きナスのおろしあえ】

グリルで香ばしく焼いた鮭と焼きナスを、おろし大根でさっぱりと!!



郷土料理愛好家 松本由美子氏

ー簡単レシピー

【材 料】 生鮭 1切れ なす 中 1本 大根 100g 青しそ 5枚 すだちの搾り汁 2個分 醤油 小 1

【作り方】

- ①グリル中火で鮭 8分、なす 15分、それぞれ返しながらこんがり焼く。
- ②鮭は、骨と皮をはずし大きめにほぐし、なすは皮を剥いて、ヘタを切り落とし、長さを半分に切ってから縦 4等分に切る。
- ③大根は皮をむいてすりおろし、ざるに入れて軽く汁けをきる。青しそはみじん切りにする。
- ④ボールに鮭、なす、大根おろしを入れ、すだちの搾り汁を加えてさっくりとあえる。器に盛り、しょうゆをかける。1人分 88kcal、塩分 0.5g

東北秘境ツアーズのススメ

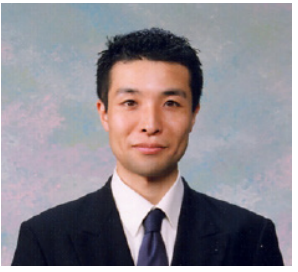
東北の秘境？

今回は東北の「端っこ」を紹介した。今回は東北の秘境について紹介したい。ただ、「端っこ」については緯度と経度で異論なく決まるが、「秘境」がどこかに

「日本の秘境100選」が選定されたことがあ。JTBの雑誌「旅」が創刊750号となるのを記念して開催されたシンポジウムの場において選定されたものである。この中で東北で選ばれたのは、八甲田山(青森県)、下北半島/恐山・仏ヶ浦(青森県)、津軽半島西岸(青森県)、八幡平・乳頭温泉郷(秋田県・岩手県)、出羽三山(山形県)、檜枝岐・野岩

執筆者紹介

大友浩平 (おおともこうへい) 奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。 「東北ブログ」 http://blog.livedoor.jp/anagmas/



Facebook: https://www.facebook.com/kouhei.ootomo

秘境とは何か

鉄道沿線(福島県・栃木県、裏磐梯・雄国沼(福島県)、遠野盆地(岩手県)、内間木洞(岩手県)、重茂半島(岩手県)、十二湖・白神山地(青森県)、飛鳥(山形県)、笹谷峠(宮城県・山形県)の13か所である。

「日本の秘境100選」に選ばれた東北の「秘境」を見て私が最初に思ったのは、「これらは秘境なんだろうか」ということである。秘境どころか、有名な観光スポットがほとんどのように見える。これらの中で私が「確かに秘境だね」ということで同意できるのは、内間木洞くらいである。岩手県の沿岸北部久慈市にあつて日本で5番目の長さを持つこの洞窟は、普段一般公開がされておらず、また龍泉洞やあぶくま洞などと比べて知名度も高くないので、その意味で秘境であると言つてよいと思う。

そもそも秘境とは何だろうか。「デジタル大辞泉」には、「外部の人が足を踏み入れたことがほとんどなく、まだ一般に知られていない地域。」とある。「大辞林」でも、「人の訪れたことのない、まだ一般によく知られていない地域。」とある。どちらの解釈でもポイントは二つで、一つは「人があまり訪れていない」こと、もう一つは「一般によく知られていない」ことである。私が「秘境」という言葉を聞いてイメージするものもこれらに近い。

そうした観点から見ると、やはり先の「日本の秘境100選」は、あまりにも人が訪れ過ぎで、あまりにもよく知られ過ぎた場所ばかりである。秘境の捉え方にもよるが、辞書的な解釈からはかなり遠い「秘境」であると言わざるを得ない。秘境に相応しい言葉として、「人跡未踏」という言葉が挙げられると私は思う。このご時世、人跡未踏の地などあるのかと思われる向きもあるかと思うが、東北の山の中にはつい最近まで人がほとんど足を踏み入れたことのない地域が多々ある。これぞまさに秘境である。

手掛かりはブナの森

東北で秘境を考える時に

手掛かりになるのはブナであると思う。2013年3月の第10号で東北のブナについて書いたことがあるが、ブナは東北各地に広く森を形成していた樹種である。しかし、木材としての利用がしづらかったために、各地で伐採され、代わりに木材として利用されるスギなどが植えられた。ということとは、現在もブナの森が残っている地域は、人の手が加えられていない、いわばあまり人が訪れていない地域と言つていいのである。その代表がもちろん、世界自然遺産として登録された、縄文時代から続くブナの原生林が今も残る白神山である。しかし、白神山地は世界自然遺産への登録で一躍有名になり、また訪れる人も急増したため、秘境とは言えなくなってしまう。

巨樹・巨木も手掛かり

もう一つ、秘境の手掛かりとしてあるのは巨樹、巨木である。それが神域にあつたために伐採を免れ、大事にされてきたというケースもあるが、そうでなければ単に発見されなかったために今に至るまで残つた巨樹・巨木も多くある。林野庁は「森の巨人たち百選」を選定した(http://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya_kokumin_mori/katyo/mori_kyoin_morinokyojin.html)が、100のうち27が東北にある。これらの中には、元々古くから巨樹として知られてきた木もあるが、環境省が1988年と2000年に全国で行つた巨樹巨木林調査の結果、存在が明らか

になった巨樹もある。岩手と秋田両県にまたがる和賀山塊もブナの原生林が多く残ることで特筆すべき地域だが、ここにある「日本一のブナ」や「日本一のクリ」の存在が明らかになったのは、まさにこの調査の結果である。和賀山塊について詳しく知りたい場合は、「美しき水の郷あきた」のサイト内にある「巨樹の森・和賀山塊」が参考になる。
(<http://www.pref-akita.jp/fpd/sizen/wagasankai-01.htm>)
山形県の北部、最上(もがみ)地域もそうである。1市4町3村からなるこの地域は、総面積の8割が森林であるが、ここでも全国有数の巨樹・巨木が多く見つかつている。最上地域観光協議会のサイトで詳しく紹介されている。
(http://kanko-mogami.jp/?page_id=184)

奥会津の秘境

先に紹介した只見町は奥会津と称される地域にある。会津と言つと、この地域の中心都市会津若松市が有名で、確かに市内を歩くところかしこに会津らしさを感じる。これらの中に、元々古くから巨樹として知られてきた木もあるが、環境省が1988年と2000年に全国で行つた巨樹巨木林調査の結果、存在が明らか

になった巨樹もある。岩手と秋田両県にまたがる和賀山塊もブナの原生林が多く残ることで特筆すべき地域だが、ここにある「日本一のブナ」や「日本一のクリ」の存在が明らかになったのは、まさにこの調査の結果である。和賀山塊について詳しく知りたい場合は、「美しき水の郷あきた」のサイト内にある「巨樹の森・和賀山塊」が参考になる。
(<http://www.pref-akita.jp/fpd/sizen/wagasankai-01.htm>)
山形県の北部、最上(もがみ)地域もそうである。1市4町3村からなるこの地域は、総面積の8割が森林であるが、ここでも全国有数の巨樹・巨木が多く見つかつている。最上地域観光協議会のサイトで詳しく紹介されている。
(http://kanko-mogami.jp/?page_id=184)

秋田内陸にある秘境

先に紹介した「森の巨人たち百選」の中には「きみまち杉」という、樹高が58メートルという日本一の高さの杉がある。58メートルと言つと、15階建てのビル

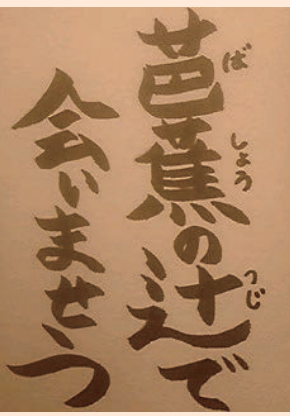
に相当する高さだそうである。この「きみまち杉」があるのは、秋田県能代市の仁鮎水沢スギ植物群落保護林である。この保護林もほとんど知られていないので秘境と言つて差し支えないと思うが、人工林ではない秋田杉の天然林が見られる希少な場所である。一歩足を踏み入ると、とにかくそのスギの存在感に圧倒される。植林されたスギとはスケール感がまるで違う。入口にある看板の文句が面白い。「道路沿いなどによくある人工林とは段違いのスケールを誇る巨木林です。ただ目が慣れると感激が薄れてしまいますのでご注意ください」とある。
「森と水の郷あきた」のサイト内の解説が詳しい。
(http://www.forest-akita.jp/data/field/kimimachi_kimi-sugi.html)
北秋田市にある森吉山周辺もまさに秘境と呼ぶに相応しい地域である。古くから霊峰として山麓住民の信仰の対象となつてきた森吉山にも豊かなブナの森がある。水の豊かな山で、山間のあちこちに滝があることでも知られている。

普通の「東北」に飽き足りない方へ

これまで紹介してきた地域は、恐らくあまり知られていないと思われる。いずれも「東北の秘境」という称号に値する地域と言えるのではないだろうか。冬ともなるとまさに人跡未踏の地となるが、今の時期であれば、もちろん奥地まで入り込むのであれば本格的な装備が必要となるが、そこまででなければ比較的軽装でも、十分秘境の醍醐味を味わうことができる。

有名な観光地巡りには飽きたという方や、東北らしさを存分に味わいたいという方にはぜひおススメしたい。

連載
むかしばなし



第三十九話
国分に賭ける

「私も思った。一緒に、フェルトのような黒や茶色の暖かめの服を着ており確かに古来からの北方民族を思わせる。それにしても何故、近代文明から最も遠いと思われる人々が、こうして一隻の宇宙船を統括するに至ったのか・賢治たちには不思議で仕方がなかった。長老らしき白髪の男と、若きリーダーといった風貌の凛々しい青年が何事か聞き取れぬ言語でやりとりを交わし、青年の隣にいたトヨハが通訳する。

「船長のウーヌと、主任航海士バヴリーシン。船は二人を歓迎する。昨夜はよく眠れた？」

「喜善と賢治は目を見合わせる。二人が共通に見た奇妙な夢の事、そしてそれが元の世界・時代へ二人が帰還する為の手がかりに違いないという確信を、打ち明けるときか否か・確かに、近代科学的な話とは言えないが、原始信仰を基盤としているだろう、オロツコやギリヤークの末裔たちなら、わかってもらえるかも知れない。賢治は話を切り出した。

「その一連の語りを、トヨハはその場にいる誰にも翻

訳せず、まずは黙って聞き入った。話が終わると、しばし考え込む風にして、やがて答えた。

「貴殿方の存在は、他のサイド・つまり残る五つの宇宙居住区には報告してないわ。会議でも意見は割れている・全サイドは高度な信頼関係を身上にしているから。問題は貴殿方が過去から来たという事・私たちが『再び逢えぬ三人の母』と呼ぶ、あの長き良き時代」

「私も思った。一緒に、フェルトのような黒や茶色の暖かめの服を着ており確かに古来からの北方民族を思わせる。それにしても何故、近代文明から最も遠いと思われる人々が、こうして一隻の宇宙船を統括するに至ったのか・賢治たちには不思議で仕方がなかった。長老らしき白髪の男と、若きリーダーといった風貌の凛々しい青年が何事か聞き取れぬ言語でやりとりを交わし、青年の隣にいたトヨハが通訳する。

「船長のウーヌと、主任航海士バヴリーシン。船は二人を歓迎する。昨夜はよく眠れた？」

「喜善と賢治は目を見合わせる。二人が共通に見た奇妙な夢の事、そしてそれが元の世界・時代へ二人が帰還する為の手がかりに違いないという確信を、打ち明けるときか否か・確かに、近代科学的な話とは言えないが、原始信仰を基盤としているだろう、オロツコやギリヤークの末裔たちなら、わかってもらえるかも知れない。賢治は話を切り出した。

「その一連の語りを、トヨハはその場にいる誰にも翻

訳せず、まずは黙って聞き入った。話が終わると、しばし考え込む風にして、やがて答えた。

「貴殿方の存在は、他のサイド・つまり残る五つの宇宙居住区には報告してないわ。会議でも意見は割れている・全サイドは高度な信頼関係を身上にしているから。問題は貴殿方が過去から来たという事・私たちが『再び逢えぬ三人の母』と呼ぶ、あの長き良き時代」

「私も思った。一緒に、フェルトのような黒や茶色の暖かめの服を着ており確かに古来からの北方民族を思わせる。それにしても何故、近代文明から最も遠いと思われる人々が、こうして一隻の宇宙船を統括するに至ったのか・賢治たちには不思議で仕方がなかった。長老らしき白髪の男と、若きリーダーといった風貌の凛々しい青年が何事か聞き取れぬ言語でやりとりを交わし、青年の隣にいたトヨハが通訳する。

「船長のウーヌと、主任航海士バヴリーシン。船は二人を歓迎する。昨夜はよく眠れた？」

「喜善と賢治は目を見合わせる。二人が共通に見た奇妙な夢の事、そしてそれが元の世界・時代へ二人が帰還する為の手がかりに違いないという確信を、打ち明けるときか否か・確かに、近代科学的な話とは言えないが、原始信仰を基盤としているだろう、オロツコやギリヤークの末裔たちなら、わかってもらえるかも知れない。賢治は話を切り出した。

「その一連の語りを、トヨハはその場にいる誰にも翻

訳せず、まずは黙って聞き入った。話が終わると、しばし考え込む風にして、やがて答えた。

「貴殿方の存在は、他のサイド・つまり残る五つの宇宙居住区には報告してないわ。会議でも意見は割れている・全サイドは高度な信頼関係を身上にしているから。問題は貴殿方が過去から来たという事・私たちが『再び逢えぬ三人の母』と呼ぶ、あの長き良き時代」

「私も思った。一緒に、フェルトのような黒や茶色の暖かめの服を着ており確かに古来からの北方民族を思わせる。それにしても何故、近代文明から最も遠いと思われる人々が、こうして一隻の宇宙船を統括するに至ったのか・賢治たちには不思議で仕方がなかった。長老らしき白髪の男と、若きリーダーといった風貌の凛々しい青年が何事か聞き取れぬ言語でやりとりを交わし、青年の隣にいたトヨハが通訳する。

「船長のウーヌと、主任航海士バヴリーシン。船は二人を歓迎する。昨夜はよく眠れた？」

「喜善と賢治は目を見合わせる。二人が共通に見た奇妙な夢の事、そしてそれが元の世界・時代へ二人が帰還する為の手がかりに違いないという確信を、打ち明けるときか否か・確かに、近代科学的な話とは言えないが、原始信仰を基盤としているだろう、オロツコやギリヤークの末裔たちなら、わかってもらえるかも知れない。賢治は話を切り出した。

「その一連の語りを、トヨハはその場にいる誰にも翻

訳せず、まずは黙って聞き入った。話が終わると、しばし考え込む風にして、やがて答えた。

「貴殿方の存在は、他のサイド・つまり残る五つの宇宙居住区には報告してないわ。会議でも意見は割れている・全サイドは高度な信頼関係を身上にしているから。問題は貴殿方が過去から来たという事・私たちが『再び逢えぬ三人の母』と呼ぶ、あの長き良き時代」

「私も思った。一緒に、フェルトのような黒や茶色の暖かめの服を着ており確かに古来からの北方民族を思わせる。それにしても何故、近代文明から最も遠いと思われる人々が、こうして一隻の宇宙船を統括するに至ったのか・賢治たちには不思議で仕方がなかった。長老らしき白髪の男と、若きリーダーといった風貌の凛々しい青年が何事か聞き取れぬ言語でやりとりを交わし、青年の隣にいたトヨハが通訳する。

「船長のウーヌと、主任航海士バヴリーシン。船は二人を歓迎する。昨夜はよく眠れた？」

「喜善と賢治は目を見合わせる。二人が共通に見た奇妙な夢の事、そしてそれが元の世界・時代へ二人が帰還する為の手がかりに違いないという確信を、打ち明けるときか否か・確かに、近代科学的な話とは言えないが、原始信仰を基盤としているだろう、オロツコやギリヤークの末裔たちなら、わかってもらえるかも知れない。賢治は話を切り出した。

「その一連の語りを、トヨハはその場にいる誰にも翻

訳せず、まずは黙って聞き入った。話が終わると、しばし考え込む風にして、やがて答えた。

「貴殿方の存在は、他のサイド・つまり残る五つの宇宙居住区には報告してないわ。会議でも意見は割れている・全サイドは高度な信頼関係を身上にしているから。問題は貴殿方が過去から来たという事・私たちが『再び逢えぬ三人の母』と呼ぶ、あの長き良き時代」

「私も思った。一緒に、フェルトのような黒や茶色の暖かめの服を着ており確かに古来からの北方民族を思わせる。それにしても何故、近代文明から最も遠いと思われる人々が、こうして一隻の宇宙船を統括するに至ったのか・賢治たちには不思議で仕方がなかった。長老らしき白髪の男と、若きリーダーといった風貌の凛々しい青年が何事か聞き取れぬ言語でやりとりを交わし、青年の隣にいたトヨハが通訳する。

「船長のウーヌと、主任航海士バヴリーシン。船は二人を歓迎する。昨夜はよく眠れた？」

「喜善と賢治は目を見合わせる。二人が共通に見た奇妙な夢の事、そしてそれが元の世界・時代へ二人が帰還する為の手がかりに違いないという確信を、打ち明けるときか否か・確かに、近代科学的な話とは言えないが、原始信仰を基盤としているだろう、オロツコやギリヤークの末裔たちなら、わかってもらえるかも知れない。賢治は話を切り出した。

「その一連の語りを、トヨハはその場にいる誰にも翻

訳せず、まずは黙って聞き入った。話が終わると、しばし考え込む風にして、やがて答えた。

「貴殿方の存在は、他のサイド・つまり残る五つの宇宙居住区には報告してないわ。会議でも意見は割れている・全サイドは高度な信頼関係を身上にしているから。問題は貴殿方が過去から来たという事・私たちが『再び逢えぬ三人の母』と呼ぶ、あの長き良き時代」



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出演し演奏する。フィドル(ヴァイオリン)担当

「私も思った。一緒に、フェルトのような黒や茶色の暖かめの服を着ており確かに古来からの北方民族を思わせる。それにしても何故、近代文明から最も遠いと思われる人々が、こうして一隻の宇宙船を統括するに至ったのか・賢治たちには不思議で仕方がなかった。長老らしき白髪の男と、若きリーダーといった風貌の凛々しい青年が何事か聞き取れぬ言語でやりとりを交わし、青年の隣にいたトヨハが通訳する。

「船長のウーヌと、主任航海士バヴリーシン。船は二人を歓迎する。昨夜はよく眠れた？」

「喜善と賢治は目を見合わせる。二人が共通に見た奇妙な夢の事、そしてそれが元の世界・時代へ二人が帰還する為の手がかりに違いないという確信を、打ち明けるときか否か・確かに、近代科学的な話とは言えないが、原始信仰を基盤としているだろう、オロツコやギリヤークの末裔たちなら、わかってもらえるかも知れない。賢治は話を切り出した。

「その一連の語りを、トヨハはその場にいる誰にも翻

訳せず、まずは黙って聞き入った。話が終わると、しばし考え込む風にして、やがて答えた。

「貴殿方の存在は、他のサイド・つまり残る五つの宇宙居住区には報告してないわ。会議でも意見は割れている・全サイドは高度な信頼関係を身上にしているから。問題は貴殿方が過去から来たという事・私たちが『再び逢えぬ三人の母』と呼ぶ、あの長き良き時代」

「私も思った。一緒に、フェルトのような黒や茶色の暖かめの服を着ており確かに古来からの北方民族を思わせる。それにしても何故、近代文明から最も遠いと思われる人々が、こうして一隻の宇宙船を統括するに至ったのか・賢治たちには不思議で仕方がなかった。長老らしき白髪の男と、若きリーダーといった風貌の凛々しい青年が何事か聞き取れぬ言語でやりとりを交わし、青年の隣にいたトヨハが通訳する。

「船長のウーヌと、主任航海士バヴリーシン。船は二人を歓迎する。昨夜はよく眠れた？」

「喜善と賢治は目を見合わせる。二人が共通に見た奇妙な夢の事、そしてそれが元の世界・時代へ二人が帰還する為の手がかりに違いないという確信を、打ち明けるときか否か・確かに、近代科学的な話とは言えないが、原始信仰を基盤としているだろう、オロツコやギリヤークの末裔たちなら、わかってもらえるかも知れない。賢治は話を切り出した。

「その一連の語りを、トヨハはその場にいる誰にも翻

シリーズ 遠野の自然
「遠野の立秋」
遠野 1000 景より

今年は、特別に梅雨が長かったように感じる。そして遅くやってきた夏は、その短さの故なのか、わずかの時間で夏のエネルギーをすべて放出しようとして、やたらに暑い。

そのため、日中は外に出るのは控えて、夕方になったら出かけようとするも、夕方でも三十度以上ある。とても夕涼みなど不可能な状態である。それでも暦では、八月七



門打ち



権現様

日頃は立秋である。遠野でも、状況は同じで毎日三十度を越える日々が続いているようである。

今回は、遠野ならではの、郷土の芸能に関連した風景、宗教的な匂いの濃い風景を取り上げてみようと思う。

*

「門打ち」は、お祭りの風景で、神社に向かう前の踊り。なんだかとても懐かしい感じがする。

「権現さま」は、手作り感覚いっぱい獅子で、表情がかわいい。

「大蛇(おろち)」は、夜の神楽なのか、ぼんやりとした灯りのなかで、とても迫力がある。他方、「神楽翁舞」は、穏やかな表情である。

「地藏尊額」は、額の上の絵が古そうに興味深い。「石塔 大神宮」は、伊勢神宮に参拝し、無事帰って来た記念に建てたようである。

「神楽 打ち鳴らし」は、まさに荘厳な雰囲気。「心」が伝わってくる感じがある。「石塔 雷神」は、雷の神さまを祀ったもの。やはり雷は夏が似合う。



神楽 翁舞



地藏尊額



大蛇(おろち)



石塔 雷神



神楽 打ち鳴らし

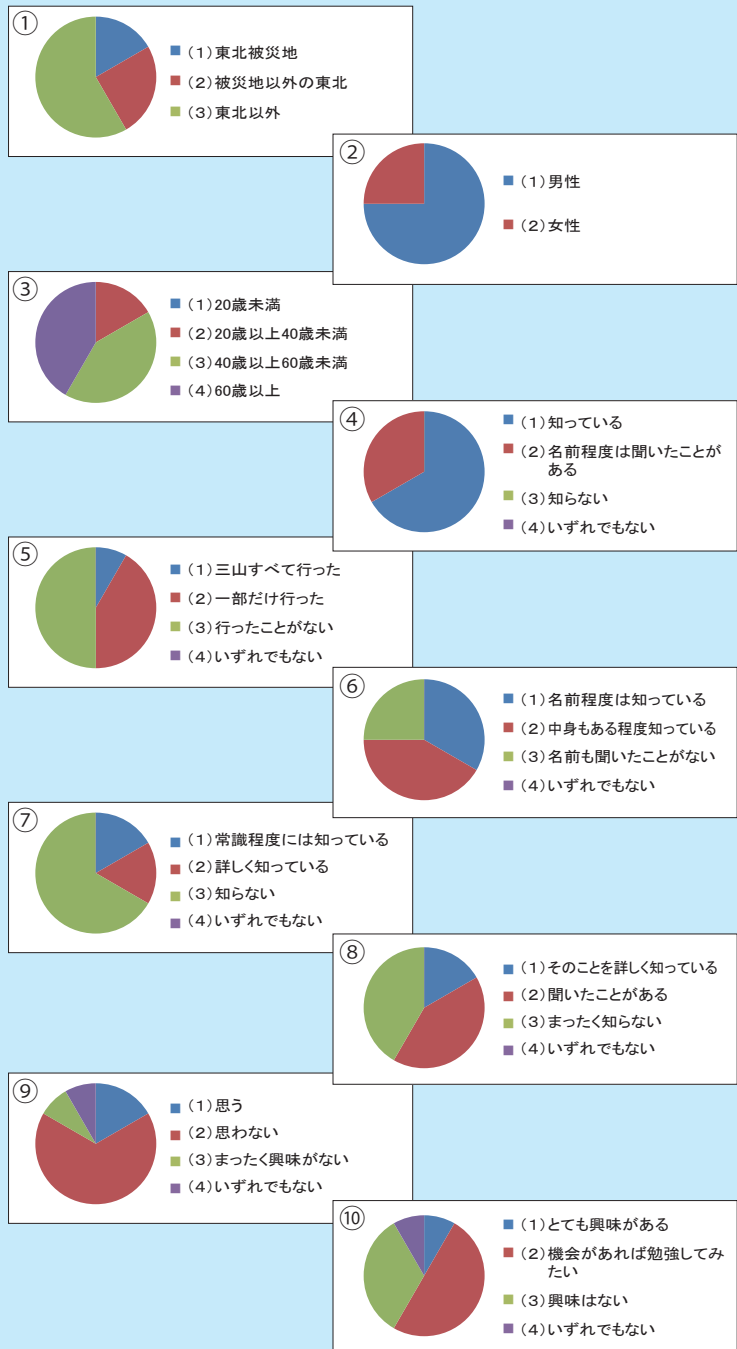


石塔 大神宮

第50号 ネットアンケート集計結果

【出羽三山修験道について】

NO.	質問と選択肢	回答数
①	住所	
	(1) 東北被災地	2
	(2) 被災地以外の東北	3
	(3) 東北以外	7
②	性別	
	(1) 男性	9
	(2) 女性	3
③	年齢	
	(1) 20歳未満	0
	(2) 20歳以上40歳未満	2
	(3) 40歳以上60歳未満	5
	(4) 60歳以上	5
④	出羽三山を知っているか?	
	(1) 知っている	8
	(2) 名前程度は聞いたことがある	4
	(3) 知らない	0
	(4) いずれでもない	0
⑤	出羽三山に行ったことがあるか?	
	(1) 三山すべて行った	1
	(2) 一部だけ行った	5
	(3) 行ったことがない	6
	(4) いずれでもない	0
⑥	修験道を知っているか?	
	(1) 名前程度は知っている	4
	(2) 中身もある程度知っている	5
	(3) 名前も聞いたことがない	3
	(4) いずれでもない	0
⑦	宗教としての修験道の教えについて知っているか?	
	(1) 常識程度には知っている	2
	(2) 詳しく知っている	2
	(3) 知らない	8
	(4) いずれでもない	0
⑧	東北郷土芸能ルーツとしての修験道について	
	(1) そのことを詳しく知っている	2
	(2) 聞いたことがある	5
	(3) まったく知らない	5
	(4) いずれでもない	0
⑨	山伏体験をしてみたいか?	
	(1) 思う	2
	(2) 思わない	8
	(3) まったく興味がない	1
	(4) いずれでもない	1
⑩	修験道に惹かれるか?	
	(1) とても興味がある	1
	(2) 機会があれば勉強してみたい	6
	(3) 興味はない	4
	(4) いずれでもない	1



出羽三山修験道は知らない人が多い???

今回は【出羽三山修験道について】であった。大震災直後の心の復興に貢献した三陸の郷土芸能のルーツのひとつが出羽三山修験道であるとの考察がある。そこで突っ込んでこの件に関して聞いてみようと思った。回答者数は十二名。

④ 「出羽三山を知っているか?」は「知っている」が2/3。一応知られてはいるようだ。

⑤ 「出羽三山に行ったことがあるか?」は、「行ったことがない」が半分、「一部だけ行った」が約47%。

⑥ 「修験道を知っているか?」は、「ある程度知っている」と「名前程度は知っている」と合わせると3/4。知名度はあるようだ。

⑦ しかし、「修験道の教えについて知っているか?」は、「知らない」が2/3。宗教としてはほとんど馴染みがないようだ。

⑧ 「東北郷土芸能ルーツとしての修験道について」は、「聞いたことがある」と「まったく知らない」が同数で約41.7%ずつ。

⑨ 「山伏体験をしてみたいか?」は「思わない」が2/3。まったく人気がない。

⑩ 「修験道に惹かれるか?」は「機会があれば勉強してみたい」が最多で半分、「興味はない」が1/3。千年経てば、宗教も娯楽も大変化するであろう。

編集後記

前々回、前回と併せて、複数の連載記事が終了となりました。重なるときは重なるものです。

そうしたことがあって、筆者の担当記事が久しぶりに大幅に増加しました。

個人的なことではありますが、筆者の人生においても、先月、今月と大きな節目がありました。

若い時分には、有り余るエネルギーで簡単に乗り越えられることも、還暦過ぎると、体力・気力ともに弱体化して、「よつこらしよつと」と掛け声をかけないと越えられないことがとても身に沁みます。

また、この歳で、人生の方向転換に失敗はしたくありませんので、余計慎重にならざるをえないこともあります。

その点で、大失敗したらもうやり直しのきかない年齢だということを、いやといふほど思い知らされます。同時に、いま、被災地で奮闘しておられるご同輩には、心からエールを送りたいと思うのです。

あの震災から五年以上が経過しましたが、被災地の復興は遅々として前進していません。さらに一段と、新たな企画、アイデアが求められていると感じます。

当新聞も、この点で、さらに一層、鋭く切り込んでまいりたいと思います。

「東北を世界に！」プロジェクト募集

- プロジェクト募集要領
- ① 東北の復興、活性化、再興を目的としたプロジェクト企画であれば、何でも可
- ② 応募資格は特に定めず、被災地、被災地以外の居住も問わず、国籍・年齢・性別を問わず
- ③ 企画書のようなものがあれば可---形式自由(プロジェクト名、プロジェクト期間、目的、どうやって実現するかの手段、仲間などを明記していただきたいと思ひます)
- ④ 〆切はとくに設けません

「東北を世界に！」プロジェクト募集

- 連絡先/企画提出先
(郵送) 〒207-0005 東京都東大和市高木3-315-1 ホームタウン宮前2-2 電子タブloid新聞【東北復興】宛
(メール) yumuyu@wj8.so-net.ne.jp
- ご提案いただいた企画については、当新聞で責任をもって検討させていただいた上で、企画開始に向けてのしかるべき方法・手段をご提案するなり、企画実現のための仲間を募ってまいりたいと考えております。また、当新聞でご紹介させていただきたいと思ひます。(氏名公表か非公表かはご相談)
- たくさんのご提案をお待ちしています